

韓国における芸術大学 舞踊専攻生の特性 - 因子分析による分類 -

韓国大眞大学 梁 恵眞
筑波大学 頭川昭子

Key word : 芸術大学舞踊専攻生、舞踊経験、将来の希望職業、興味・関心、身体的特性、因子分析

目的

本研究は、韓国の芸術大学に所属する舞踊専攻生の特性を、生活習慣、性格の特性、身体的特性、興味・関心、一般運動能力、創作能力の6視点と、舞踊経験、将来の希望職業との関連で明らかにすることを目的として行われた。

研究方法

予備調査を経て、筆者らが作成した調査用紙を用いて実験が行われた。舞踊経験、希望職業、6視点の103項目で構成された5段階評定の調査用紙に、韓国の異なる2つの芸術大学に所属する大学1、2年次生210名(男37名、女173名)の大学生が回答した結果を資料とし、因子分析がほどこされた。舞踊経験、希望職業を分類し、6視点との関連は、F-test、t-testを経て因子スコアの有意差が導き出され、分析、考察された。

結果とその考察

1. 舞踊に関する基礎的資料の分類

舞踊経験はバレエ、モダンダンス、民族舞踊の熟練者の3グループに、希望職業は、ダンサー、指導者、舞台関係、その他の4グループに分類された。6視点からなる103項目は、視点毎に因子分析され、33意味次元が抽出された。

2. 舞踊専攻生の平均的特性

韓国の芸術大学の舞踊専攻生は、幼少時からダンスを専門的に学習し、入学時の舞踊経験年数、経験舞踊数も多い。活動量と摂取カロリーが多く、外向的で真面目、身体的に筋肉質でもなく、脚は曲線ではなく、個性的な顔でもない、ファッション、ダンス、鑑賞、音楽、メディアに関心が高いという傾向がみられた。

3. 舞踊専攻生の舞踊経験と意味次元の関連

バレエ、モダンダンス、民族舞踊の熟練者は、活動時間帯、内向・外向性、瘦身、身体の長さ、鑑賞、音楽、メディア、ダンス創作、ジャンプ、舞台演出の10次元において有意差が見られた。バレエ経験者は、朝型ではなく、内向的性格、瘦身ではなく、鑑賞、音楽、メディアに興味・関心はなく、ジャンプなどの運動能力や創作能力もない

とっていたが、ダンス創作には興味・関心を持っていた。モダンダンス経験者は、朝型、内向的性格、瘦身、身長が高く、下肢が長く、音楽、ダンス創作には能力がないが、ジャンプなどの運動能力はあると考え、メディアには興味・関心がみられた。また、民族舞踊経験者は、朝型、外向的、瘦身ではなく、やや身長が高く、下肢が長く、鑑賞や音楽に興味・関心があり、舞台演種の創作能力はややあると思っていると言える。

個人記入の身長、体重の結果から、3グループともにスタイルが良く、記述内容との違いが見られた。バレエ経験者の関心は踊ること、創ること以外になく、自分のダンスを創作するモダンダンス経験者が創作に関心がないのは気がかりである。

4. 舞踊専攻生の希望職業と意味次元の関連

4グループの有意差は、活動量、活動時間帯、ダンス、鑑賞、音楽、文章能力、舞台演出の7次元に見られた。ダンサー希望者は、文章能力、舞台演出能力はないと思っていたが、活動量がやや多く、踊ること、鑑賞、音楽に興味・関心が見られた。指導者希望者は、活動量がやや多く、やや朝方であり、鑑賞、音楽には興味・関心はなく、舞台演出能力はないと思っていたが、文章能力、創作能力はあると考えていた。舞台関連希望者は、活動量が少なく、踊ることに関心がなく、舞台演出能力はあると考えていた。その他の希望職業では、活動量は少なく、朝型であり、踊ることに関心はないが、鑑賞に興味・関心があり、舞台演出の能力はあると考えていたと言える。

以上のことから、舞踊経験、希望職業の分類において、それぞれの特性が明らかにされ、その中から問題点が提示されたと言える。